

## ラクス「楽楽精算」

申請のミスや不正の防止にも効果を発揮！

経費精算の「IT化」による  
コア業務への集中で競争力強化を

IT活用による業務改革が中小企業において加速している。主要な目的は、コスト削減や業務の効率化だ。月額料金で利用できる多様なサービスが登場する中で、導入企業が急増している「経費精算システム」がある――。

中小企業が注目する  
管理系業務の改革

主要先進七カ国の中で日本の労働生産性は二〇年連続で最下位<sup>※</sup>。こうした事実も示すとおり、多くの日本企業にとって生産性のアップは必須の課題。業種を問わず、企業間の競争がますます激しくなる現在、業務プロセスを一つ一つ見直し、その効率化を図っていかねば、勝ち残っていくのは難しい時代といえる。

そうした中、特に中小企業の間では、これまであまり手を付けてこなかった管理系業務の改革が注目を集めている。その一つが経費精算の業務だ。経費精算という、所定の用紙に書き込んだ

り、エクセルのフォーマットに入力したり――。そんな企業が多いだろう。当たり前になってきているため気付きにくいかもしれないが、電車の乗車区間や料金を一件一件確認するなど、手間のかかる作業だ。

また申請時の手間ばかりでなく、管理職であれば内容に間違いがないかをチェックするのも時間も取られる。さらに、申請の処理をする経理担当者も定期券の区間が差し引かれているかチェックしたり、会計ソフトに金額を再入力したりと非効率な部分が多岐に多い。もし、これら社員、管理職、経理担当の作業を効率化することで、それぞれが本来行うべき「コア業務」に集中できるようになれば、それは会社全体の成長につながるに違いない。

「ミスの防止」と  
「手間の削減」を両立

では、具体的にどうするか――。求められるのは適正かつ合理的な経費精算を実現する「仕組みづくり」にほかならない。煩雑な作業をシステム化することで、「ミスの防止」と「手間の削減」を両立する。こうした発想こそが、労働生産性を高めていくには重要だ。

ラクスの「楽楽精算」は、まさにそうした仕組みづくりを実現するクラウドサービスである。経費の申請、承認、精算すべてをIT化するもので、クラウド型経費精算システムとして導入社数国内ナンバーワンを誇っている。「楽楽精算」の使い勝手をまず支えて

いるのが、交通系ICカードの履歴読み取り機能だ。ICカードリーダーにカードをかざせば、利用履歴が取り込まれ、そのまま申請データとして活用できる。また乗換案内が内蔵されており、承認する上長などには申請内容が「早」「安」「楽」の最適な経路かどうか、アイコンで示されるというから便利である。もちろんクラウドサービスなので外出先での利用もOK。いつでも、どこでも使える環境をつくることで、社員や管理職の手間を軽減してくれるのだ。

一方、経理担当者にとっては自動仕訳機能が大きな助けとなる。「楽楽精算」では、申請時に自動で勘定科目や税区分の仕訳がされるように設定が可能。さらに仕訳データは、会計ソフトに取

り込むこともできるので、経費精算業務の効率が大幅にアップする。

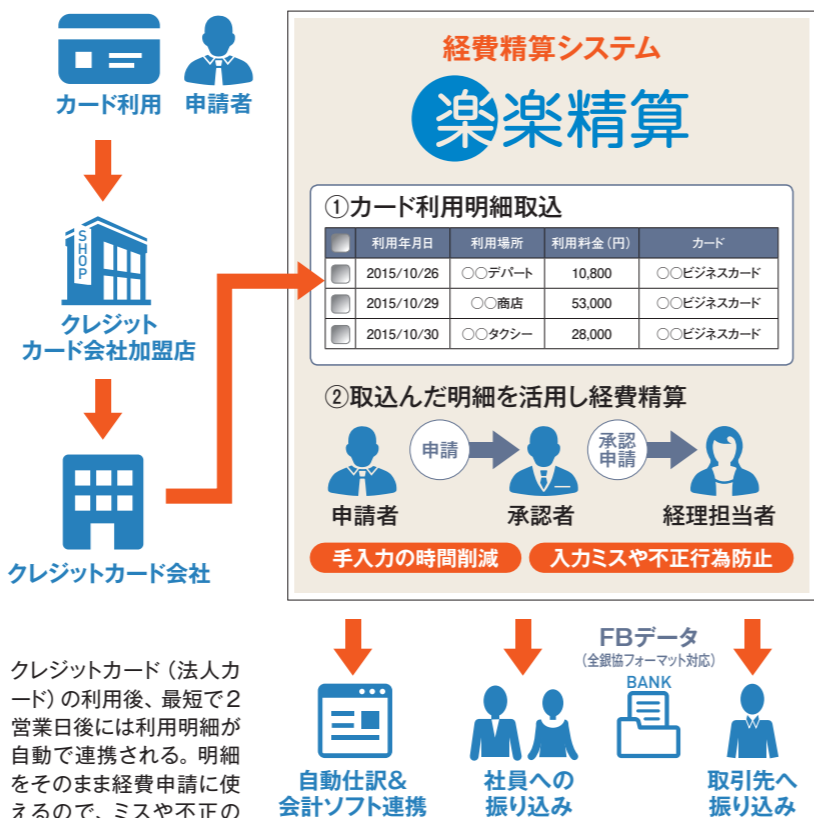
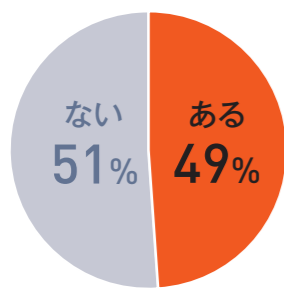
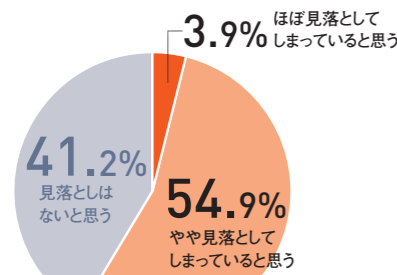
クレジットカードの  
利用明細も自動で連携

そしてもう一つ、実用的なのがクレジットカードとの連携機能だ。マネージャークラスであれば法人カードを持つ人も多いだろうが、その利用明細が「楽楽精算」に自動で連携されるため、そのまま経費の申請に使えるのである。利用明細を確認できるのは本人だけ、プライベートでの利用は申請から除外できるので使う側にとっては安心だ。経理部門にとっても、交通費以外の経費精算で申請ミスや不正を未然に防ぐ有効な手段となる。当然、利用金額や利用日時などは修正できないので、内部統制の強化にも効果を発揮する。

下の円グラフのとおり、ラクスの調査によれば経費申請の不正は少なくない。しかし手作業で、それを完全に防止するのは難しい。仮に一人一回数十円の申請ミス・不正でも、全社で積み上げれば一年間で相当な額になる。それを考えれば、やはり経費精算をIT化する意義は非常に大きい。

「楽楽精算」の導入企業数は、現在一〇〇〇社以上。三年ほど前の約二〇〇社から五倍ほどに急増している。社員一〇〇人の企業が導入したときのコスト削減効果は、年間二〇〇万円超とい

## ●クレジットカードの利用明細をそのまま経費精算に!

Q 経費精算において、不正申請(水増し、架空申請)を見つけたことはありますか?  
(企業規模:500名~1000名未満)Q 不正申請に対してどのくらい見落としを防いでいると思いますか?  
(企業規模:500名~1000名未満)

株式会社ラクスが経理担当者630名に行った調査結果(2014)

うから、その人気もあがる。四日かかっていた経費精算業務が数時間に短縮された「三名で三日かかっていたものが二名で二日に短縮し、一名は他の業務に集中できるようになった」などが実際のユーザー企業からの声だ。もちろん経理部門だけでなく、すべての社員の作業効率が高まるのが、このシステムを使うメリットである。

「楽楽精算」はクラウドサービスのため、インターネット接続環境があれば導入可能。鉄道の運賃改訂などがあっても、自社で対応する必要は一切ない。また申請画面の項目名やレイアウトは柔軟にカスタマイズできるので、いま使っている書式を再現することが可能だ。申請する側が戸惑うこともないだろう。ラクスでは「楽楽精算」のほかにも、紙の請求書や納品書などを電子化し、コスト削減および業務効率化を実現する「楽楽明細」などを提供している。「ITで中小企業を強くする」ことを理念に掲げる同社の多様なサービスは、まさに生産性向上を後押しするもの。競合他社の一歩先を行きたいと考える企業にとっては、見逃せないサービスといえそうだ。

## 楽楽精算

導入企業の声も聞け、無料お試し体験も申し込めるサイトはこちら!

楽楽精算 検索